

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 1 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202873		
法人名	有限会社 丸モ水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5 (電 話) 011-785-6222		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月25日	評価確定日	平成22年2月22日

【情報提供票より】 (平成21年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	水光熱費 20,000 円 暖房費(11~3月) 10,000 円
敷 金	有 (96,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (12月16日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	2 名	要介護 2	1 名
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ラベンダー在宅診療クリニック、北海道脳神経外科記念病院他
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内は、ゆとりある使いやすい間取りとなっており、居間の大きな窓からの眺めで人や車の往来、向かいの小学校の登下校や遊んでいる児童たちの様子がうかがえます。介護サービス事業に熱心な施設長や管理者が職員と介護やケアにあたり、利用者と寄り添いながら温かな関係を築いています。ホーム内は清潔でゆとりがあり、手作りの飾りで季節感が感じられ、利用者の思いや意向を尊重したケアサービスが実施されています。ホームの理念「地域の中で、安らぎと喜びのある生活」が実践されています。利用者一人ひとりについて作成された家族便りが好評で家族から信頼をいただいています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善課題の、地域とのつきあい、栄養摂取や水分確保の支援、居心地のよい共用空間作りは改善されていますが、災害対策については引き続き取り組むことを期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が個別に自己評価表を作成し、管理者がまとめ作成されていますが、前回の外部評価での課題項目について、具体的な改善に取り組めるよう、改善シートを活用してホーム内の会議や勉強会を行なっていくことを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に2ヵ月毎に開催され、地域包括センター、利用者家族、町内会役員等が積極的に参加して、毎回ホームの活動報告や予定、出席者からの多様な意見をまとめ、議事録に記載されており、情報の共有化を図り、スムーズに開催されていることが確認できます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が来訪した際に声かけをして、気軽に意見を聞けるような雰囲気を作っています。いただいた意見を反映するために職員同士で話し合い、相談して改善しています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民の方々とは、ホーム行事の夏祭りに招待したり、町内会の婦人部の見学会や雑巾の寄贈、介護相談や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど交流を図っています。運営推進会議でも地域包括センターや地域住民の方々に意見をいただいています。地域密着型サービスの双方向の交流を深める地域活動に、今後も積極的な取り組みが検討されています。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念に「地域の中で安らぎと喜びのある生活」を掲げ、地域密着型サービスの役割に根ざした理念を作り上げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念のほか、ユニットケア理念もあり、見やすい場所に掲げており、管理者と職員はミーティングやカンファレンス等で確認をしながら、理念の共有が図られています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民の方々とは、ホーム行事の夏祭りに招待したり、町内の婦人部の見学や雑巾の寄贈をしていただくなど、交流を通してホーム運営の理解と認知症に対する啓発を行なっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で作成したものを管理者がまとめ完成しています。サービスの向上への意識を高く持ち、自己評価に取り組んでいますが、前回の外部評価結果における課題項目の改善に向けて職員全員での取り組みが確認できません。	○	ホームの質向上のために自己評価・外部評価を通して明確になった課題について、改善策や改善計画を職員全員で検討し、「改善シート」を活用した取り組みを期待します。

札幌市東区 グループホーム せせらぎの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に定期開催しています。ホームの運営状況や利用者へのケアサービスの状況報告などの情報の共有化を図ると共に、課題についての率直な意見・要望をサービス向上とホームの運営に反映させています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の保護課や保険課と連携を図り、利用者の暮らしとサービスの質の向上に向けた相談やアドバイスをいただいております。区の認知症高齢者の事例検討会にも出席をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりや行事案内など、家族が知りたい点を考慮し、きめ細やかな情報や毎月の外出や行事の様子など、写真を多く載せた利用者一人ひとりについてのホーム便りを毎月郵送しており、家族から好評をいただいています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の用意もありますが、家族来訪の際に、職員が積極的に声をかけて、家族からの意見や要望を聞くようにしています。いただいた意見は職員で共有し、反映するよう努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職が決まってからは利用者のダメージを軽減するために、ほかの職員がカバーして関わりを持つようにしています。新規の職員に交替した場合は、利用者と積極的に関わり、信頼関係がもてるようにしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じ外部研修を受講する機会を設けており、研修後は受講内容を会議で職員へ伝達し、情報の共有をしています。ホーム内での内部研修が計画されていません。	○	職員を育てる取り組みは、外部への研修参加や、内部での研修を利用しながら、ホームとして職員の知識や技術を磨くため、経験に応じた個々の職員の研修参加が必要です。レベルアップ、スキルアップにつなげていく目的でホーム内での内部研修を計画的に実現することを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流があり、ホーム行事の相互訪問やホーム見学などを行なっています。今後は、地域の他のグループホームにも発信して相互訪問等で交流の輪を広げ、地域のネットワーク作りをすることも検討しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に馴染んでいただいてから安心して利用開始できるように、ホームに来ていただいて、雰囲気を感じて不安なく馴染めるようにしています。ホームに訪問が困難な利用者には、管理者や職員が病院や自宅に伺い、馴染みの関係になって安心して利用開始が出来るように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者のペースに合わせて、出来る事や出来ない事を見極め、出来そうな事は時間をかけても出来るまで待つことや、出来ない事だけを支援するなどの支え合う関係を築いています。利用者から教えていただく場面を作り、料理や共同作業で喜怒哀楽を共にしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話を利用して、コミュニケーションを図りながら希望や思いを聞き、利用者の意向に沿うように入浴時間帯や好みの献立等を出る限り把握するようにしています。困難な場合は表情や声のトーンで把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態を家族に説明し、家族の意見や要望を取り入れ、職員全員でのカンファレンスを通し、利用者本位の介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者全員の介護計画を3ヵ月毎に作成しますが、毎月のモニタリングや日々のケア記録、申し送りの中で利用者の身体状況の変化に気づいた場合は、速やかに介護計画の見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への送迎や、買物などに同伴する等で利用者の希望や要望に、より柔軟な対応をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は毎週歯科の受診と隔週で内科と整形外科の受診をしており、適切な医療支援を受けています。24時間対応の医療機関も確保されています。かかりつけ医の受診では情報を共有しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する指針を作成し、入居時に説明していますが、看取り介護についての同意書は終末期に近い段階で再度説明をしています。終末期の看取りの経験はまだありませんが、24時間対応の医師を確保しながら連携を密にして、利用者、家族の要望があれば看取りまでの対応ができる状況にあります。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のトイレ誘導や、言葉かけでプライバシーを損ねないように心がけて実践をしています。面会簿は利用者の家族毎に連記する方法になっていますが、家族の希望により別表にする場合もあります。個人情報の記入や保管も管理を徹底しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて過ごせるように利用者一人ひとりと常に会話を交わし、希望や思いを汲み取り、できる限り希望に添う支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや味付け、食後の下膳を手伝っていただき、職員は利用者と同じテーブルで会話をしながら、楽しく食事をしています。献立は利用者の要望を反映し、行事食や外食など食事に変化をつけて楽しいものになるように工夫をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守りや介助などを行ないながら、週に2回の入浴回数を基準にしています。入浴を拒む利用者には職員の声かけで気分を変えて入浴が出来るように支援しています。浴室の出入り口はスロープになっており、車椅子や歩行器での対応も可能になっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な分野で発揮できるよう調理の手伝いや、利用者の生活歴を活かして、好きなことに張り合いと楽しみが持てるような支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のほかにも計画的に外出しており、利用者の楽しみになっています。毎月2回程度はホームの車両でショッピングモールに行ったり、ドライブに外食を組み合わせることで、日常の気分を変え閉じこもりの防止に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室に鍵がなく、玄関ドアも夜間のみ防犯目的で施錠するだけで、それ以外の時間帯は出入りが自由にできるようになっています。職員は利用者の外出の気配にさりげなく同行し安全に見守りをしています。		

札幌市東区 グループホーム せせらぎの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は一回避難訓練を開催しましたが避難訓練に近隣住民の方々への参加呼びかけがみられず、災害時に必要な備蓄品の確保がされていません。	○	災害訓練は、日中と夜間を想定して行ない、緊急の事態に備えて、職員全員が救命救急を受講済みであることが望めます。運営推進会議で話し合い、災害時における地域住民の方々との協力関係を築き、防災対策の強化に努められることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個人別に記録しており、食事はバランスの摂れた内容で調理されたものが提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りや利用者手作りの日めくりカレンダーが貼られており、温かな雰囲気の良い空間になっています。キッチンは見守りやすく対面式で、料理の匂いは利用者の五感を刺激し家庭的で居心地の良い場所となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の意向や家族の協力をいただき、馴染みの家具やお気に入りのポスター、家族の写真などを置き、居心地の良い自分の空間を作り出しています。		

※ は、重点項目。